

未経験者の育成、派遣先で

エンジニア不足、転籍も視野

UTやウイル、顧客と組む

製造業向け派遣各社が派遣先企業と共同で未経験者を専門人材に育てる動きが広がっている。UTグループ系は未経験者を最短1年半で半導体エンジニアに育てる。ウイルグループ系は文系出身者などを機械電気系エンジニアに戦力化する研修を3月に派遣先と始めた。派遣する即戦力人材の確保が難しくなるなか、育成を通じて供給力を高める。

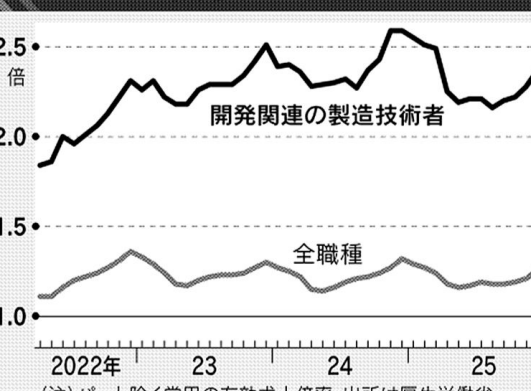
2月下旬、富山県砺波市にあるイスラエルの半導体企業、タワセミコンダクター子会社の工場。実習室では10人の従業員が半導体の基礎知識の講義を受けていた。受講者は全員、UTグループ傘下のUTエム（東京・品川）などに所属、

同工場ではオペレーションの経験を積んでいる派遣社員だ。UTエムから派遣された、エンジニアやオペレーターとしてのスキルを磨く研修プログラムの一部だ。講師はTPSCの社員が務める。本人の希望と適性が合えば、未経験でも半導体

の製造工程を改善する「プロセスエンジニア」や半導体チップを改良する「デバイスエンジニア」へのキャリアアップを目指す。次の世代を担う人材は育てていくしかない（TPSCの砺波人事課の楠本学主事）。

製造業向け派遣では通常、派遣先が求める条件に合ったスキルや経験を持つ人材を確保し、派遣する。ただ開発関連の製造技術者は人手不足が顕著で、25年の有効求人倍率は2・30倍と全職種（1・21倍）を上回る。派遣

開発関連の製造技術者の需要は旺盛



で2・3カ月教育する。その後、派遣先で実務経験を積みながら、2・3年かけてエンジニアとしてある程度の業務をこなせるようになる。ただ、UTエムの育成センターでは汎用的な基礎知識や技能を学ぶ研修が多い。TPSCの砺波工場では派遣社員の研修を担当する砺波拓哉課の細敬三課長は「少しでも早く現場に慣れてもらう方がスキルアップの効率が高い」と話す。現場で働きながら研修すること

派遣先での人材育成が広がる

派遣先	人材育成の取り組み
UTエム	半導体製造の派遣先と業界未経験の人材をオペレーターやエンジニアに育成
ウイルオブ・ワーク	未経験人材を機械電気系のエンジニアに育てる施策を3月から始めた
BREXA Holdings	半導体やプラントなど4つの派遣先で技術者に育成



TPSCは派遣社員向けにエンジニア研修を開く

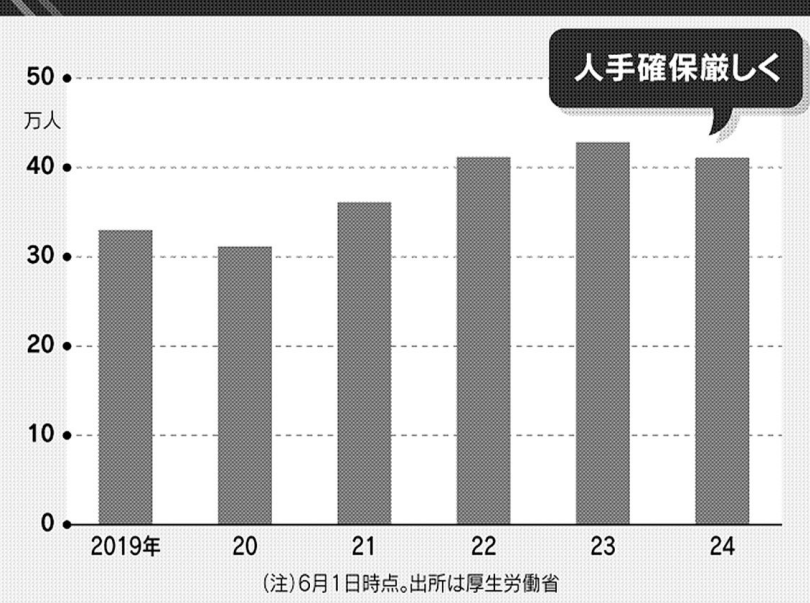
波工場では派遣社員の研修を担当する砺波拓哉課の細敬三課長は「少しでも早く現場に慣れてもらう方がスキルアップの効率が高い」と話す。現場で働きながら研修すること

「マニュアルに従って作業する製造オペレーターよりも臨機応変な対応能力や論理的思考力が必要になる」（UTエムの伊藤清隆マネージャー）。砺波工場ではこれまでにオペレーターも含めて約20人がTPSCに転籍した。

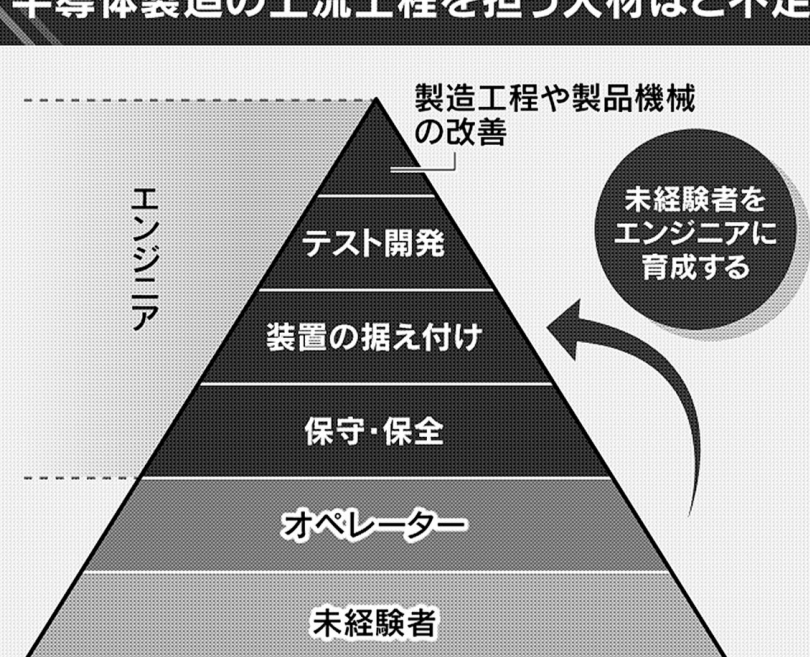
製造業向け派遣では、旺盛な需要に派遣会社の人材の供給力が追いついていない面がある。厚生労働省によると、製造業に携わる派遣労働者は24年6月時点で約41万人と5年前から3割増えた。一方で、足元では派遣会社が人材確保に苦戦し、前年比で約1万7000人減少した。

「人材が不足している。即戦力の確保だけでなく、派遣先と一体で人材を育てる体制を築けるかが、派遣会社の競争力を左右しそうだ。」

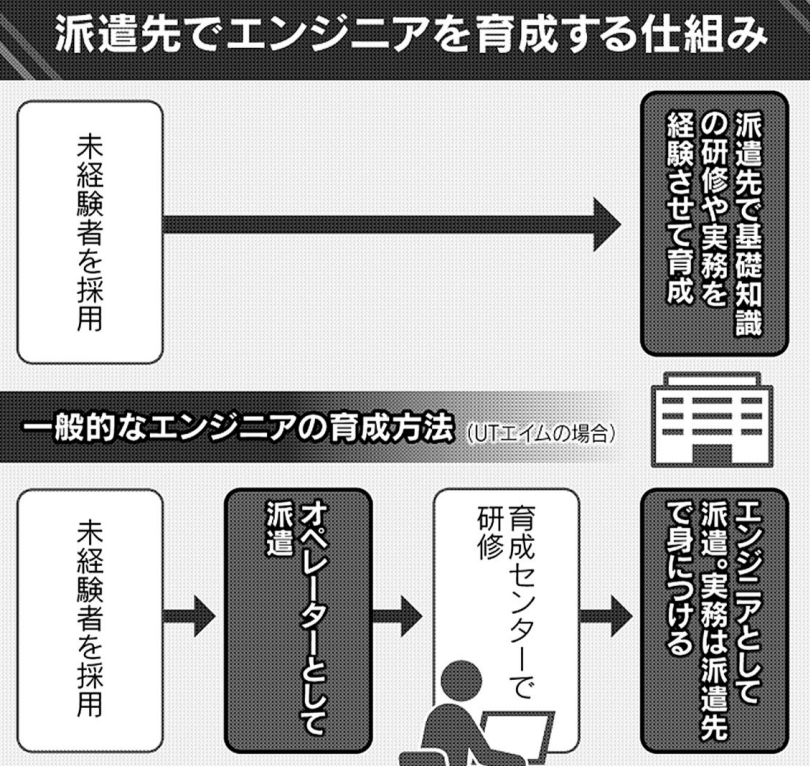
製造業で働く派遣社員は5年で3割増



半導体製造の上流工程を担う人材ほど不足



派遣先でエンジニアを育成する仕組み



文系も戦力に ウィルグループ傘下のウイルオブ・ワーク（東京・新宿）も3月2日、インフラ設備の設計を手掛ける泰栄エンジニアリング（同・千代田）と共同で、未経験人材を機械電気系のエンジニアに育成する取り組みを始めた。泰栄エンジニアリングの現場で基礎知識や現場実務を学ぶ研修を約1カ月受講する。

先はより専門性の高い人材を育てる体制を築けるかが、派遣会社の競争力を左右しそうだ。」